

広瀬

広瀬鎌二建築展 SH+ 第3回 2022年生誕100年に向けて SH-38~SH-60

建築設計図(原図)+建築写真(平山忠治氏、三沢博昭氏)+BIMモデル

2020.11.14(土)▶19(木) 9:00~19:30
19日は、17:30まで



建築会館ギャラリー (入場無料)
東京都港区芝5丁目26番20号
アクセス：JR田町駅、都営地下鉄三田駅 徒歩3分

God is in the details

後援：一般社団法人日本イコモス国内委員会 一般社団法人 DOCOMOMO Japan 公益社団法人日本建築家協会
東京都市大学 東京都市大学建築学科教室 東京都市大学同窓会 [校友会] 東京都市大学建築学科同窓会 [如学会]

主催：広瀬鎌二アーカイブズ研究会 hirose.archive@gmail.com

鎌二

広瀬鎌二建築展 SH + 第3回

前回の第2回「広瀬鎌二建築展SH+02」では代表作のSH-30を中心とし、原図、写真、SH-30原寸模型（三鉸接ラーメン鉄骨スケルトン）、BIMモデルなどを展示しました。同時にシンポジウム「戦後住宅のなかでSH-30／SHシリーズが与えたもの」を開催し、多くの参加者を得ました。

三鉸接ラーメンは、SH-32で開発された「33型」から始まりましたが（SH-30はこれより先に計画が始まり、設計完了は後になった）、この構造では細いピン柱が平面計画の上でかなり邪魔になること、剛接梁を付けた主柱が立体的に作られるために輸送上制約を与えていることなどから、「43型」と呼ばれる改良形が開発されました。さらには、ピン柱を一切排除した「52型」に発展しました。これらに関して、1961年『建築文化』に「三鉸接組立構法—構造の可能性を追って」を著しています。

同時に、日本建築学会論文集に建築部品の性能についての論文を続けて発表し、同年「建築部品の性能と精度に与える条件」を東京大学に提出しています。モジュールについての論文も精力的に発表し始めており、「組み立てラーメン架構」の開発と部品化は、明らかに工業化を視野に入れた活動です。

このような中、1962年にはSH-60というSHシリーズの中では少し異質の作品があります。斜面の土地に突き出す形の窓のない白い箱は、イラストレーターの故大塚静六氏の自邸で、大塚氏とご夫人の想いが詰まっている作品です。大塚静六氏は、私の学生時代にたまたま広瀬研究室に現れ、私達にも気さくに接していただきました。当時ハードボイルドの人気作家であった大藪春彦氏の書籍に描かれた挿絵は、若者に評判でした。そのカッコよすぎるイラストは荒々しさの出せる10円の鉛筆で描かれたことなど話題につきませんでした。このSH-60は当時の原図が見つかりませんが、できるだけ資料で展示する予定です。

コロナ禍で原寸模型などの大掛かりなものは出展できませんが、第5回までにつながる展覧会にいたします。ご期待ください。

広瀬鎌二アーカイブズ研究会 代表 矢野和之



SH-54 三沢博昭氏 撮影

広瀬鎌二（1922年 - 2012年） 略歴

1942年 旧制武蔵高等工科学学校建築科卒業、井上工業入社 1944年 応召により赤羽工兵隊入隊 除隊後、海軍施設部山地地方事務所入所 1945年 終戦、井上工業に復帰
1946年 東京木工設計部入社 1950年 村田政真建築設計事務所入社 1951年 広瀬鎌二建築技術研究所設立 1962年 東京大学 工学博士 学位論文「建築部品の性能と精度に与える条件」
1966年 武蔵工業大学（現・東京都市大学）教授 1993年 武蔵工業大学を定年退職、同大学名誉教授、広瀬研究室を設立 2012年 2月7日 逝去 89歳